

学 校 教 育 目 標	未来を拓き、心豊かにたくましく生きる力を育む
目 指 す 学 校 像	百年余りの本校の歴史を大切に受け継ぎ、信頼を土台とした子ども一人ひとりが輝ける学校

重 点 目 標	1 児童一人ひとりが主体的に学び、個の力を最大限に伸ばし、どの子どもも取り残さない教育活動を展開する 2 自他の命を大切、尊重し心豊かな児童の育成を図る 3 地域とともにある学校づくりを推進する 4 安心・安全で美しく整えられた教育環境づくりを進める 5 教職員の資質向上を図り、持続可能な教育活動を実践する組織づくりに取り組む
---------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、

方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和 年 月 日	
番 号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	○学力の本校平均は、市の平均と比較し、ある程度高い傾向にあるが、学習への関心や意欲がさほど高くない現状が見られており、高学年になる程顕著にあらわれている。 ○学力における個人差が大きく見られ、2極分解の状況が特に算数において顕著にみられている。 ○特に低学年において、姿勢維持や持ち物の管理ができない児童が見られ、そのような児童は学習意欲も低い状況が見られる。	「学びの自律化」を図る指導の充実	①授業において学ぶ目的（どのような力が付くのか）を理解し、目標（どのような学びを行うのか）もたせる指導を行う。 ②学ぶ見通しを立てさせ行動できる（手順を立て、理解し、努力する）力を育む。	・市学力調査生活習慣に関する調査の「学びに向かう力」「主体的・協同的に学ぶ」等の項目で、3学年以上で肯定的評価90%を超えている。				
		児童一人ひとりのニーズ、実態に応じた指導の充実	①算数科において1・2・6年ではチームティーチングを、3・4・5年では少人数指導を実施する。また、少人数指導では、児童選択制による習熟度別指導を実施する。 ②教科担任制授業を3～6学年で実施、1・2年では道徳の交換授業、3～6年では総合的な学習の時間（けやきタイム）で学年合同授業を実施する。	・市学力調査生活習慣に関する調査の「学習状況（算数）」で5学年は90%以上、その他の学年では、前年度と同様な状況を保っている。 ・市学力調査生活習慣に関する調査の「学びに向かう力」「学校生活」等の項目で、全学年で肯定的評価90%を超えている。				
2	○落ち着いて生活できている児童が多いが、その中でも、相手を尊重しないわい言のない言葉からトラブルに発展するケースが見られる。 ○児童には、様々な発達上の課題、特性が見られるが、それを理解できない、認められない保護者が見られ、そのことに起因して問題行動や不登校に発展するケースが徐々に増えてきている。	人権意識や思いやりの基盤である「三つの基本」の定着と人権意識の浸透	①三つの基本の指導を全校挙げて力を注ぐようにする。特に「日本一心のこもったあいさつができる学校」を中核として保護者、地域と連携して取り組む。 ②多様性を認め合う「みんなちがってみんないい」の意識を道徳教育、人権教育の一層の充実を図ることで浸透させる。	・学校評価アンケートで児童の肯定的評価が90%以上、保護者の肯定的評価が「学校生活」で90%以上、「あいさつ」で70以上とする。				
		一人ひとりの児童のWell-beingを大切にする支援の充実	①校内教育支援センターSola ルームを中核に不登校児童や課題を抱えた児童の支援の充実を図る。 ②特別な支援を必要としている児童への支援体制の確立を図る。 ③いじめや生徒指導上の課題で、生徒指導委員会等組織を活用し毅然とした対応を図る。	・学校評価保護者アンケートで以下の項目を達成する。 1 「いじめ」では80%以上 2 「教育相談体制」では92%以上の現状維持 3 「生徒指導」では90%以上				
3	○三世代で暮らしている児童が多く見られ、安定した家庭も多く落ちついて過ごしている児童が多い。 ○地域では、本校を卒業した方が多く、愛校心があり協力的である。 ○保護者は、学校に児童を送り届けたりする家庭も多く、懇談会の出席率も高いことから学校への関心や理解が全体的に高いことが伺われる。	地域に根ざした教育の推進	①学校運営協議会、スクールサポートネットワークを核にし、学校と保護者、地域が協働し、子どもの成長を支え、地域社会作りに貢献する。 ②家庭と連携し、家庭、地域におけるあいさつ運動の奨励を通して健全な生活習慣づくりを推進する。	・学校運営協議会を年3回、SSN を年1回開催している。 ・学校運営協議会で熟議された取組を実践している。				
4	○昨年度リフレッシュ工事が完了し、環境が新たに整えられている。その状況を維持する必要がある。また、校庭やC棟1階廊下は工事が不十分であったため更に整備する必要がある。	施設・設備の日常的な点検の実施と不良個所の迅速な対応	①施設・設備の日常的な点検を確実に徹底し、校舎内外の危険及び不良個所の把握と迅速な修繕を実施する。 ②普段あまり使用されない居室の整理整頓を行う。	・安全点検を毎月定期的に実施する。 ・学校評価保護者アンケートで肯定的評価90%以上（現状維持）とする。				
5	○教職員集団では、比較的ベテランが多いが、若手教員や経験が浅い教員も多く、教師力の伝承は課題である。 ○ICTの活用では苦手意識がある教員も多く、ICTを含めこれからの教員に求められる能力を育成するために研修は必須である。 ○在校時間は全体的に改善しつつあるが、一部の教職員が、比較的長い状況があり、健康面等が心配である。	教職員のキャリア段階に応じた資質・能力の向上	①教職員のキャリア段階や適材適所を考慮、生かした学校組織を確立する。 ②教職員一人ひとりの専門性を高めるための研修の充実を図る。	・教職員アンケート肯定的評価を10ポイント以上上昇させる。				
		働き方改革の推進	①終業時刻18時30分、学校開庁時刻20時、時間外在校時間月45時間以内、年間360時間以内を意識したメリハリのある働き方を実践する。 ②業務の見直しや業務の平準化を図り効率的な業務の遂行、学校運営の推進に取り組む。	・課業日の18時30分までの退職者の月平均を5ポイント以上上昇させる。				